

わが街の 知ってるつもり!?



あなたの市の歌を知っていますか？

「市歌ってあるの?」「知っていたけど、どんな歌なのか聞いたことがない」そんな読者の方々の声を受け、勝手につくったわが「市歌調査隊」では、ほのぼのエリア各市役所に尋ね、調べてみました。

西東京市歌は、あの小椋佳さん作曲

田無市と保谷市が合併して西東京市となったのが平成13年。市制施行3周年を記念して市民憲章等とともに、新しい時代にふさわしい市のイメージを創出するため平成16年1月、市歌が制定されました。

市内在住・在勤・在学者を対象に、歌詞を公募。寄せられた179の作品の中から市歌選考委員会が選出し、作曲と補作詞を、かの有名な小椋佳さんに依頼。西東京市と何か所縁があるからなのかと思いましたが、「シクラメンのかほり」「愛燦燦」など数々のヒット曲があるシンガーソングライター、小椋さんがふさわしいと選考委員会が決めたのだそうです。

市のホームページから聞くことができますし、楽譜も載っています。「自分らしく暮らせるまち」がテーマのや

さしく爽やかな楽曲。画期的なのはオリジナルバージョンに加えて、さまざまな機会に利用できるよう音頭バージョン、マーチバージョンまで作られていること。

聞いたことない、歌ったことないなんてもったいない。西東京市の自慢とまりますよ。3番までありますが、誌面の都合で1番の歌詞のみ紹介しましょう(他市の歌も同様です)。

大好きです、西東京

作詞 深澤薫
作曲 小椋佳
補作詞・作曲 川辺真
編曲

朝は子ども大人 誰彼なくおはようの
声が 路地を越えて 垣根を越えて爽やか
大好きです 西東京 わたしの街 ここでは
わたしが わたしらしく わたしらしく 過ごせる
素直に 心 開き 心 安らぐ この街

小平町の時代から続く小平市歌

西東京市とは対照的に、小平市歌

は昭和29年5月、小平町制十周年を記念して作られたものです。昭和37年の市制施行と同時に小平市歌となり、60年以上にわたり歌い継がれていきます。

当時の「小平町報」を読むと町歌の発表とともに、町制十周年の祝賀式についての記載があり、5月15日式典の後に小平中学校校庭で演芸会が催され、夜は同じ校庭で映画会開催となりました。

施設がなく屋外で開いていた、のどかな時代に作られた町歌ですが、作詞、作曲はともに当時有名だった、勝承夫(かつよしお)氏と下総皖(しもふさかんいち)氏。調べてみると勝氏は詩人で元日本音楽著作権協会会長を務めた方。一方下総氏は東京藝術大学教授で作曲家。二人とも数多の小・中・高校の校歌を手がけた方だった。歌詞は、みどり綾(あや)なすはてなき大地。と始まりますが、作者によると「直感した風景を第一行とした」とあります。3番の最後は「平和を目ざし楽しく進む」とあるのが、まだ戦後9年しか経っていないことを感じさせますが、これは世界の状況をみると、今も変わらないこと。玉川上水、富士、御嶽、当時の小平の風景が浮かび、未来への希望がふれる歌、軽快なメロディーとともに「温故知新」を感

じさせます。

式典や公民館まつりなどで歌われて
いますが、市役所では職員の新研修
で市歌の練習があるとか。また役所内
の仕事納め、仕事始めなどの節目にも

小平市歌

作詞 勝承夫
作曲 下総統一

みどり綾なす はてなき大地
みなの武蔵野 希望の広場
つねに のびゆく 小平は
理想つらぬく 開拓の
歴史を誇る ころこの故郷



小平市歌を歌う(昨年のこだいら雨情うたまつりの時)

歌われています。この5月で10周年を
迎える「こだいら雨情うたまつり」で
も毎年観客も一緒になって、市歌を合
唱します。小学校の歌唱教材に市歌
の楽譜が掲載され、音楽の授業で歌
われることもあるそう。市教育委員会
のホームページに楽譜が掲載されてい
ます。

大学の呼びかけて生まれた

「清瀬賛歌」

清瀬賛歌

作詞 星野哲郎
作曲 池辺晋一郎

武蔵野の 面影のこす
赤松の 森を歩けば
人の世の 濁りも消えて
やさしさが この身を包む
絵のまぢ 情のまぢ 好きだよ清瀬
絵のまぢ 情のまぢ 好きだよ清瀬

清瀬市の場合は平成8年、創立50
周年を迎えた市内にある日本社会事
業大学の京極学長が「清瀬を励まし、
元氣が出るような歌をつくりません
か」と星野市長(当時)に提案し、平
成9年に誕生したものです。
学生も4年間過ごす清瀬に思い出
を残し、市民も自分たちの住む街に思
いをはせるような清瀬を代表する歌を

と、京極学長の幅広い人脈から作詞は
演歌の星野哲郎氏に、作曲はクラシッ
クの池辺晋一郎氏に依頼。一流の異色
コンビでできた「清瀬賛歌」。制作費
用も京極学長と、市の部課長会・係
長会が負担したと当時の市報にあり、
こちらも異色です。この貴重な歌が埋
もれることなく、歌われていってほし
いものです。(4番まであります)

東久留米市は「花の咲く街」

花の咲く街

作詞：宮沢章二
作曲：田中利光

花の咲く街 おはよう おはよう
澄んだそよ風 おはよう おはよう
みどりに染まる ころこのころ
明るく燃え合う 東久留米

東久留米市民の歌として昭和46年
制定。当時はドーナツ盤として、2
面の東久留米音頭とともに制作、頒
布されたそうです。しかし時代の流れ
とともに音源が途絶えましたが、平
成20年、市内を流れる「落合川と南
沢湧水群」が都内で唯一「平成の名水
百選」に選定されたのを記念して、地

元の民間団体が「東久留米の愛唱歌」
を企画、制作。広く市民に愛唱して
もらおうと「東久留米市民の歌・花
の咲く街」をはじめ「東久留米音頭」
「落合川賛歌」などが収録されていま
す。市内の児童合唱団が出演するど
きに歌ったり、市民活動団体のサロン
で歌われることもあるようです。

東村山市は東村山音頭が有名すぎ

意外なことに東村山市には市歌と
呼ばれる歌はないそうです。けれども
誰もが知っている「東村山音頭」が
ありますね。40年前同市出身の志村け
んさんがテレビ番組内で歌い、全国版
になった、あの「ひがしむらやまくま
庭先や多摩湖」です。こちらはアレ
ンジした歌で、もともとは昭和38年、市
制施行を記念して、当時の東村山町
農業協同組合が東村山町役場の協賛
を得てレコード発売した民謡。歌って
いるのは昭和の大歌手、三橋美智也。
1 昨年の12月から東村山駅では発車
メロデーに使われています。

地名のついた音頭はそれぞれの市に
もあり、盆踊りや市民祭りなどで接
する機会も多いと思います。けれど
も期待を込めて作られた市の歌にも
もっと光をこの機会にぜひわが市の
歌を見直してほしいものです。

清瀬のお宝、奇跡の壁画

清瀬市中清戸、気象衛星センターに隣接する清瀬市児童センター「ころぼっくる」は公園が目の前に広がる開放的な施設です。この館内2階に高さ2.5メートル、幅約10メートルの巨大壁画があります。何とこれは手塚治虫、やなせたかし、馬場のぼるなど8人の「漫画家絵本の会」の巨匠たちが描いた直筆の絵。恐竜や動物たち、縄文人(つ)、宇宙人まで自然とともに仲良く、笑顔で暮らす未来の街…皆が幸せそうで、ほのぼのとした気分になります。

この壁画は昭和62年、大宮市で開催された「さいたま花と緑の祭典」で大手建設会社のパビリオンに展示された壁画でした。終了後はこの会社の倉庫に保管されていたものの、12年後倉庫が移転することになり、パーツには



どの作家の絵かを想像するのも楽しい壁画には、見たことがあるようなキャラクターたちも。

らして包装されたまま、銭湯の燃料として清瀬の仲光湯に運ばれてきました。仲光湯の神保夫妻が貴重な作品であることに気づき、灰になる寸前、まさに危機一髪の時にこの絵は甦ったのです。

その後は神保夫妻の好意と学校関係者の手作業で、パビリオン展示の時のままに復元され、芝山小学校の玄関ロビーに展示されていました。しかし、もっと多くの人々が鑑賞できる広い場所に、と児童センターが開館したのを機に移されたのです。「清瀬賛歌」の中の「絵のまち情のまち」を地で行くようなドラマ。人が驚いた奇跡の、夢の壁画です。



◆清瀬市中清戸3-235-5
☎042(495)7700
毎週火曜日休館

本物の電車が図書館 くめがわ電車図書館

こちらも奇跡のような図書館。東村山市八坂小学校近くの美住グリータウン一番街の木立の中にたたずむ黄色の電車。西武電車の車体がそのまま図書館になったもの。歴史は古く、まだ東村山に図書館がない頃の昭和42年に誕生。久米川団地(当時)に住む母親たちが「子どものための施設をつくる空」を発足。役目を終えた西武電車を買い受けて、電車図書館を団地内に開館。その時の蔵書は250冊でした。

しかし平成元年、久米川公団の建て替えて、車体が撤去されることになり、存続の危機が…。電車での存続を交渉した結果、ようやく平成13年に二代目の電車が設置され再開館。その間、プレハブに仮移転し図書館は続いていました。

運営はすべて地域住民の手で自主的に行われ、市からの助成金で図書の購入、運営費用にあてられています。現在の蔵書は児童書を中心に5千冊。ゼロ歳から大人まで会員になれば、だれでも借りることができます。

鉄道ファンもやってきて、車体のはげた部分の塗り替えをやってくれる。昨年公開された、東村山が舞台となっ



上・もうすぐ周りが桜に彩られる
左・座席もつり革も走っていた時のままに

◆開館時間◆
(水) 10時~12時、
14時~16時30分
(土) 14時~16時30分 (祝日休館)
※土曜 14時30分~15時30分
絵本の読み聞かせや紙芝居



た映画「あん」の中に電車図書館が登場したためか、遠方からも訪ねて来て、写真を撮っていく人も。地域の大切な財産ともいえる、皆に愛されている図書館です。

「学校でも家庭でもない、ホットと願えるところ。そんな場所になるように思っています。現役のママさんたちにもぜひ活動をお手伝いしてほしいです」と代表の小椋さん。